

# フクロウ



鳥取県指定準絶滅危惧 (NT)

西伯地区にて

(撮影：桐原佳介)

「森の賢者」の枕詞とも言える夜の猛禽類、フクロウ。昔話や絵本でもおなじみの生き物です。私たち家族が南部町に引っ越して来た時、自宅にいながらにしてフクロウの鳴き声が聞こえたときは、大変感激しました。「ボホッ、ボロッホボッホ」という重低音の響きは「ボロ着て奉公」という聞きなして昔から紹介されてきました。昨年の春先には、近所の森で3羽のフクロウが違う方向から鳴き交わす様子も耳にすることが出来ました。なんとこの贅沢なBGMかと、お金では買うことのできない野生の生のフクロウの声に、南部町の良さをますます感じています。

これまで、馬場、賀祥、上野、口網屋、鴨部などで生息を確認していますが、子育ての正式な記録があるのはただ一カ所だけです。そこは、某地区のあるお寺の敷地内で、住職さんが裏山の維持管理を折々にされているおかげで、フクロウにとつて自ずと棲みいい環境になっているようです。フクロウが繁殖するには、ウロ(樹洞)のある大きな木が必ずです。そして、餌となる小動物が捕獲しやすい開けた田畑や果樹園、藪の少ない林床など人の臭いのある場所も好んで利用します。またネズミを主食とするため、世界の各地では、農作物を守る神様として祀られていることもあります。

日用雑貨のデザインにもよく用いられるフクロウですが、フクロウグッズを選ぶ時、私が気にしている観察ポイントがあります。それは、フクロウの脚の指です。指の数が2本ずつ見えているフクロウのデザインは、作家さんがちゃんとフクロウの形態を知っている証拠です。3本指だったら思い込みで描かれたものとはばれてしまいます。なぜなら、フクロウやキツツキの仲間には、木にとまる時、足の指を前2本後ろ2本にしてつかまるからです。福を呼ぶ梟、グッズを買われる時はご利益の高そうな2本指が描かれている梟をお勧めしますよ。

梟たちが南部町により福を招くよう、彼らがこの町の住民で居続けることを願っています。

自然観察指導員 桐原真希